

欲望の放課後

～じわじわ脱がせて初エッチ～



おおいぬのふぐり



もうみんな帰ってしまったみたいだな。

この教室には俺一人しか居ない。

そろそろ、「美香ちゃん」が部活を終えここに来る頃だろう。

明日提出の宿題を手伝ってほしいそうだからな。

ガラガラガラガラ

ドアの開く音が響く。
どうやら美香ちゃんが到着したようだ。



あ、先輩！
お待たせしました
申し訳ないです
私の宿題のために残ってもらっちゃって

ああ、美香ちゃん、かわいいなあ……

女の子の知り合いは、唯一この一学年下の美香ちゃんしかいない。
こんな冴えない俺でも、仲良くしてくれるととてもいい子。

制服、似合ってるな……どんな下着付けてるのかな……
どんな体してるのかな……

美香ちゃんの裸……見てみたいな。



い、いかん！ 思考が良からぬ方へ傾いていく。
でもそうなる原因は彼女にある。

彼女は言ったのだ、

「宿題を手伝ってくれたら、なんでもするから」と。

分かっている、本人はやらしい意味でそんな事を言ったのではない。
だけど、そんな事言われたら男は必ずこう思うだろう……

ん!?

今なんでもするって言うっ

先輩大丈夫ですか？

さっきからぼーっとしてますけど……

え？ ああ
だ、大丈夫……

えっと、宿題の手伝いだよね？

はい お願いします！
やっぱり先輩は優しいですねー
これで明日の宿題は何とか
なりそうです

美香ちゃん！
宿題を手伝う代わりに
何でも俺の言う事をきくんだよね？

は、はい！
先輩の部屋の掃除、洗濯
何でもやりますよ！
あ、そうだ、
明日のお弁当作りましょうか？



裸を見せてください！

は、裸……みせ……？



するり

もう、仕方ないですね
先輩ったら……
今回だけですょ？

えっマジ！



なんて、冗談ですよ
何でもするからって言われたら
そう答えたくない気持ちは分かりますけど

あははは

そもそも私、
そんなスタイル良くないですし……
先輩も変な冗談はやめてくださいよ、
ついにつちやっただじゃないですかー





.....

ま、まさか、本気なんですか……先輩？

うむ

美香ちゃんが変なフェイント入れるから
裸見るまで宿題は手伝ってあげない！

そ、そんなあ



さあ！
まずはそのスカートから
脱いでもらおうか！

ほ、本当に
脱ぐんですか!?

YES!

じろ
じろ

いささが強引ではあったが、

しぶしぶながらも美香ちゃんは

脱いでくれる気のようにだ……

スカートのファスナーを

ゆっくり下ろす音が聞こえる。

プルプル

いじいじ

う
うう……





あっ……

パチン

ハラリ

手が滑ったのか、
はらりとスカートが床に落ちた。

す、スカート脱ぎました……

えわえわ

えわえわ

タイツ越しに少しパンツが見える……

これだけでもなかなかお目にかかれない光景ではあるが、
やはり見たいのは完全なる裸……

この程度で満足できない。





そわそわ

じゃあ、次はタイツ脱ごうか

う、うん

そわそわ

美香ちゃん、少し手が震えている、
とても恥ずかしそうだ。

ちょっと待て……何やってんだ俺。

いっしょに
いっしょに

俺にとって貴重な、唯一の女の子。

嫌われないよう

美香ちゃんにだけは特別優しくして来たのに、

今日の俺はどうした。

自分でも止められない欲望がこみ上げてくる……



せ、先輩、脱ぎました……

ブラウスの隙間から
パンツが見えてるね

言わなくても分かってます……

もじもじ

もじもじ

少しからかってみるが、

余裕は無さそうだ。

俺に対する不信感……だよな。



次、ブラウスだけど、
……大丈夫？

脱いたら
宿題手伝ってくれるんですね？
が、頑張ります……

健気というか、
変な所で頑張る美香ちゃんが、
俺の理性を曇らせる。

もじもじ

もじもじ



み、美香ちゃんは、
男に裸とか見せた事はあるの？

無いですよ
そんなの

え？ じゃあもしかして
初体験まだなの？

は、はい……
そもそも、誰ともお付き合いを
した事ないですし

へえ、そうなんだ……



まさか、美香ちゃんが未経験で、
しかも、誰にも裸を見せた事がないなんて……
そんな純潔な子だったなんて。

ドキドキ

早く俺に、その純白な素肌をみせておくれ。



ブラウスを脱ぐと一気に露出度が上がる。

ふあそあ

大切な美香ちゃんになんて酷い事を。
そんな理性とは裏腹に、露になる肌、純潔という事実、
全てが欲望の味方をしてくる。



もう大事なところ以外は全部見えている。

これが誰にも見せた事がない美香ちゃんの純白の素肌……

って落ち着け、さすがに水着姿くらいは

誰かに見せた事あるだろう……

んきんき

すりり

完全にブラウスを脱いだ美香ちゃんが
ゆっくりと振り返った。



かわいい下着だね、
美香ちゃんって普段そんな下着つけてるんだ

こんな事になると思ってなかったから、
子供っぽいやつですみません。

びくびく

恥ずかしい？

は、はい……

じゃあ次は、

あの……えっと、その先輩……



や、やつはやめませんか？

えっ！ここまで来て？

びくびく

だんだん恥ずかしさに
耐えられなくなってきました。
男の人の前で脱いだ事ないので、
これ以上はやっぱりハードルが……

まずい！ここからが本番なのに

こんな所で終わるわけにはいかない！



おっぱい……じゃなくて
上だけいいからお願いします！

美香ちゃんは、はじめて男の前で脱ぐんだ

生々しい表現は控えなきゃ……

慎重かつ丁寧に……



う、上だけ、ですか？
ううー

私、ムネそんなに大きくないし、
見てもがっかりするだけですょ？



それはね、美香ちゃん
か、かわいいから大丈夫！

どういう
理屈なんですか……？

ハアハア

だからその、
おっぱいを見せてください
お願いします！

丁寧になんかやってくれるか！



う、うう……
……わ、分かりました……
う、上だけなら……

よ、よし……

ついに、美香ちゃんの……

ぺちっ

これが美香ちゃんのおっぱい……
ついに見てしまった……

ぷちん

美香ちゃんはしばらく震えて固まっている。

そして、われに返ったようにムネをさっと手で隠してしまった。





ううう……

み、見られちゃいました……

が、がっかりしてないですか？

か、か、かわいいおっぱいだね
最高だよ

う……

そんなにじろじろ
見ないでください……

「こ、これは次も行くしかないだろ。」

よし、じゃあ
この勢いで下も脱いじゃおう！

!!

え！ さっき先輩
上だけいって……

やっぱりどうしても見たい！
そのパンツの下がどうなってるのか

ドキドキ





う、ううう

美香ちゃんは軽く震えながらも

自分のパンツに手をかけ、

大きく深呼吸した。

ぽろぽろ

ぽろぽろ

ドキドキ

待ちに待ったこの瞬間……

思わず息をのむ。

そして、ついに最後の一枚を脱いだ。

顔を真っ赤にし、もうどうにでもなれ
と言わんばかりの表情。

しゃりり

これが美香ちゃんのアソコ……

かわいらしいワレメに薄めの毛、

誰にも見られたくない恥ずかしい部分を

俺だけが見ている……



美香ちゃん薄めだねアソコの毛

そ、そうなんですか？

比べた事ないから分からないです……

ぽくぽく

パルパル

カ〜

美香ちゃんとアソコの毛についての会話してる。

たまらない

欲望が次々といやらしい思考回路を巡廻する。

どうして今日はこんなに欲望が暴走するんだ！





わ、私先輩の前で裸になっちゃてるんですね……

恥ずかし過ぎて
どうにかなちやいそうです……

ぷるぷる

ささや

ぽくぽく
ぽくぽく

手で隠さずに
ちゃんと見せてほしいな……



ぽくぽく

ぽくぽく
ぽくぽく

「……ですか……」

両手を上にあげて
もっとよく見せてよ！

プルプル
プルプル

ぷんぷん
ぷんぷん

ああ、なんという光景だ。

俺はずっと前からこの時を待っていた気がする。

そうか、この欲望は今日になって急に沸いて出たものではない。

恐らく美香ちゃんとの学生生活の中で少しずつ溜まり、

あの言葉をきっかけに、一気にあふれ出したのか……

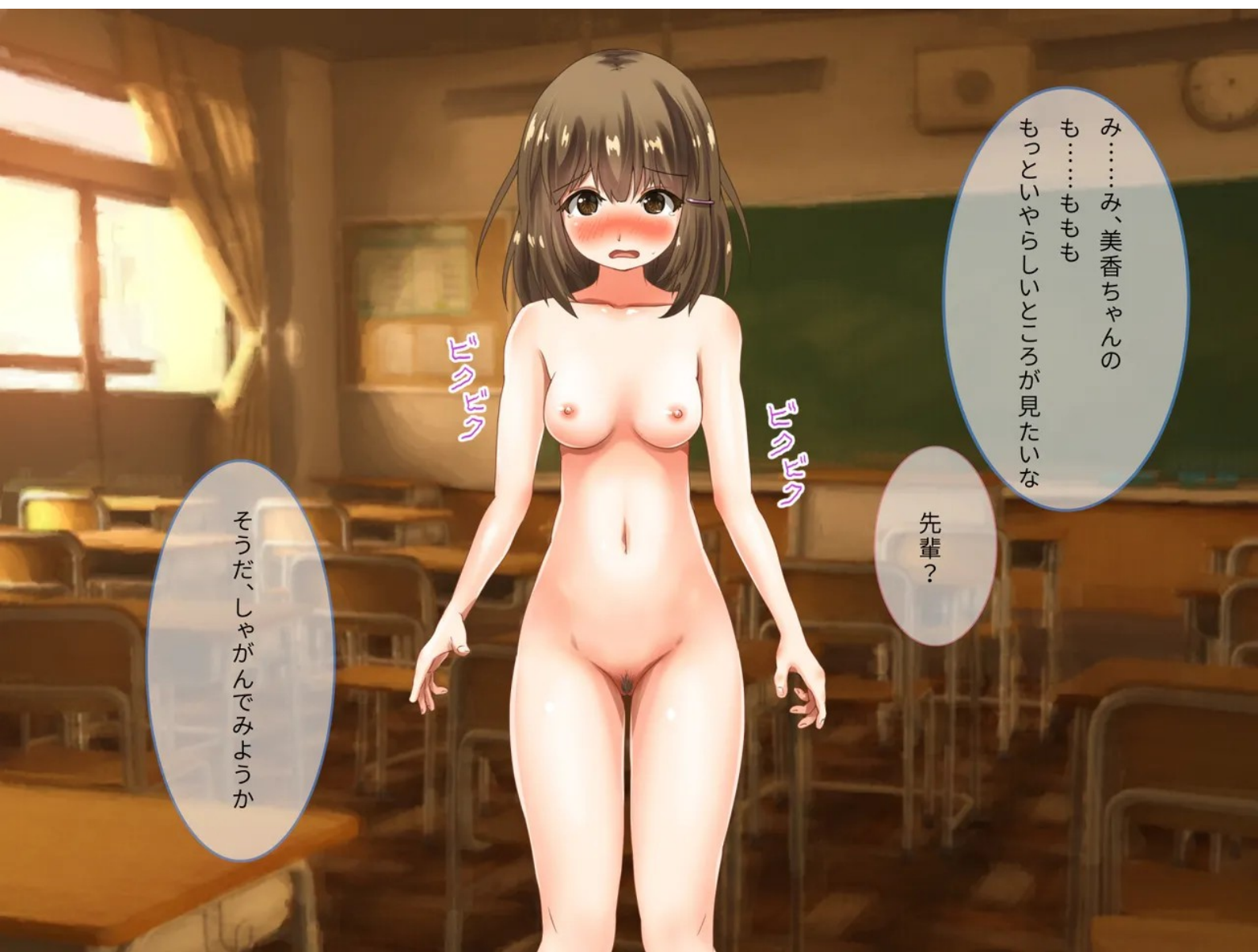


だめだ、もう、理性が崩壊しそうだ。

いくらでも欲望があふれ出てくる。

もういつその事、

欲望に身を任せてしまった方が……



み……み、美香ちゃんのも……ももももつといやらしいところが見たいな

先輩？

ビクビク

ビクビク

そうだ、しゃがんでみようか



ちよこん

ほ、本当に
見るだけなんですよね？

も、もちろんだよ、だからほら
ゆっくり足を開いて……

ひびひび



も、もうちょっと！
おもいきって
開いちゃおう！

うっ...うっ...うっ...



ぬ、濡れてる！

びくびく

プルプル

ぬちや

プルプル

せ、先輩がエッチな事ばかりするから……

美香ちゃんが濡れている……

こんなに純粋な子が、

エッチな事考えて濡れている……

ごめん美香ちゃん……

今までの優しい俺は完全に死んだ。

もうどうなったっていい……

俺は美香ちゃんが欲しい……





キヤッ

美香ちゃん！
俺、もう限界なんだ！

せ、先輩！

あー



きゃあああ！

びしゅ

ぬ

ぬ

ぬ

ズボンを下ろしたただけなのに、パンツの隙間から、
硬直した俺のペニスが精子をぶちまけやがった。





せ、先輩まで
裸になって……
まさか！

じゃあ、入れるよ
美香ちゃん

ええ？
えええ！



い、入れるって、先輩
見るだけのはずじゃ……
そもそも私初めてで



入り口が狭いな……
初めてならこんなものか

心の準備があー！

グーグー

ギンギン



よ、よし奥まで入った！

膣の中は十分濡れていて、
一度入ればとてもスムーズに
奥まで入る。

えへん

んっ！

えへん

美香ちゃんの中はとてもあたたかい。
締め付け具合は緩めで、
ペニスが進入される事に慣れていないようだ。



まずはゆっくりピストンだ……

膣内のヒタが優しく俺のペニスを刺激する。



美香ちゃんは抵抗する様子もなく、
俺の動きにひたすら耐えているようだ。
時々ビクツと体を震わせるのがまた愛らしい。

ビクッ

こいッへこいッへ





俺、今美香ちゃんを襲ってる……

たった一人の俺に優しくしてくれる後輩の女の子。

そんな大切な存在だからこそたまらない……

ズボズボ



ズボ
ズボ

ズシュー

腰を動かせば、ペニスを優しく包み込む
膣内のヒダが、じらすように刺激してくる……



美香ちゃんは感じているのだろうか……

ズボズボ

バックを試そう！

新しい刺激に、美香ちゃんは驚いているようだ。

プルプル

プルプル



俺も驚いている！

ペニスの裏スジ部分に膣の壁が強烈にこすり付けられる！
腰が勝手に動く、止められない！



さっきの刺激とは比べ物にならない……

これは膣が締まってきているのか！

バックのおかげで俺のペニスが美香ちゃんの性感帯を

刺激している？

ズ
ズ
ズ

パ
ン
パ
ン





せんぱい……

美香ちゃんから漏れる甘い声……
快感を感じ始めているのか……

ああ、美香ちゃんの膣に
俺のペニスが馴染んでいくのを感じる……





もっと、もっと、美香ちゃんの全てを感じさせてくれ。
美香ちゃんの全てが欲しい。

ズルッ
ズルッ

ズルッ
ズルッ

あーっ



美香ちゃん……

エロいよ美香ちゃん……

舌を入れても、それに応じてくれる……



膣の締め付けが一段と強くなっている……

美香ちゃんももう限界なのか！



お、俺ももう限界だ！
美香ちゃんが少し動いただけでも
かたく締まった膣のヒダが
匠に刺激してくる。



てっぺん

そのくせ、俺のペニスを、

いやらしい愛液で

びしょびしょに濡らし。

スムーズにピストンさせる。



こんなに純粋な子なのに！

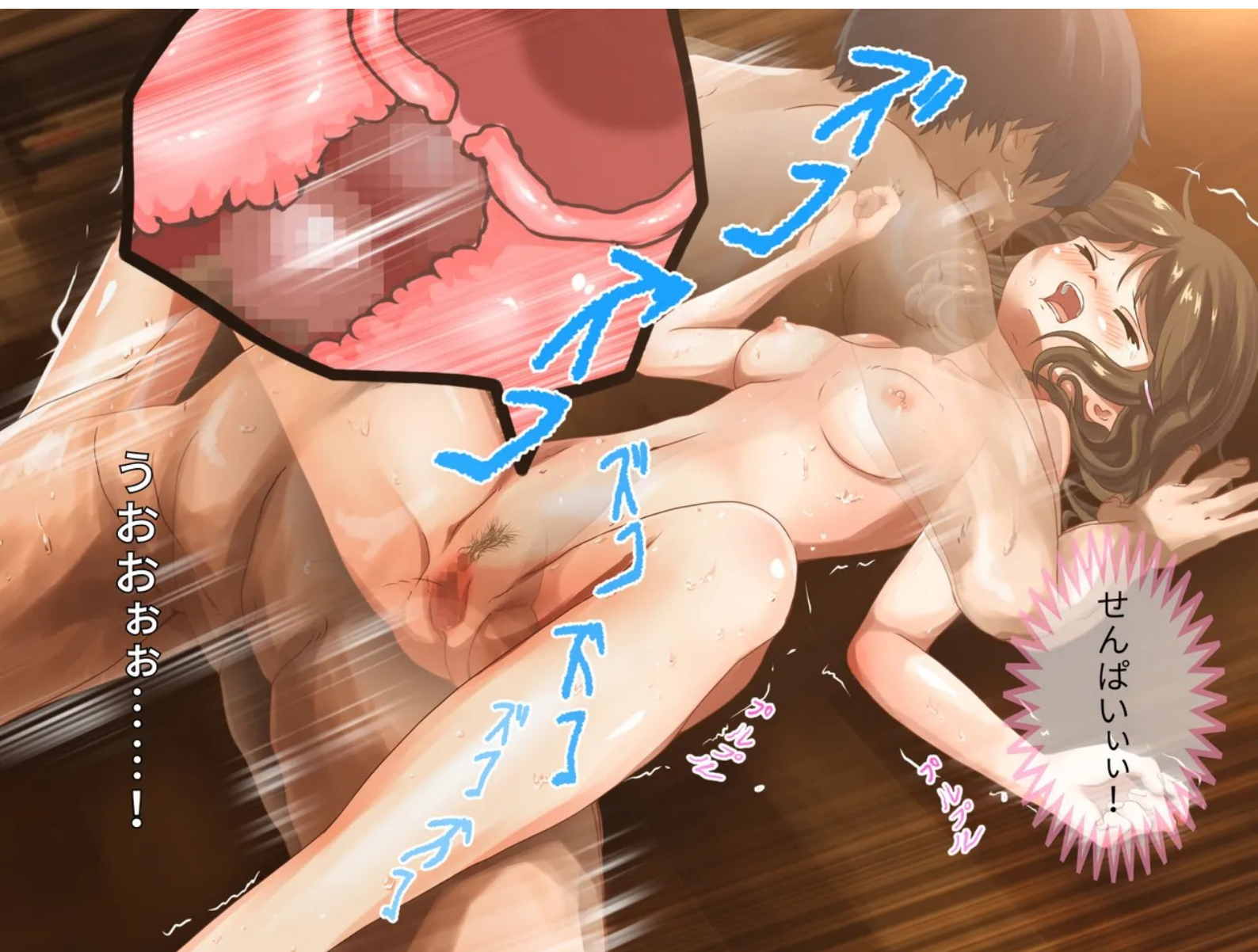
こんなに酷い事をしているのに！

どうしてこんなに、俺のペニスを誘惑してくる！



出すよ！
美香ちゃん
中に出すよ！

あはあ！
せん……ばい……

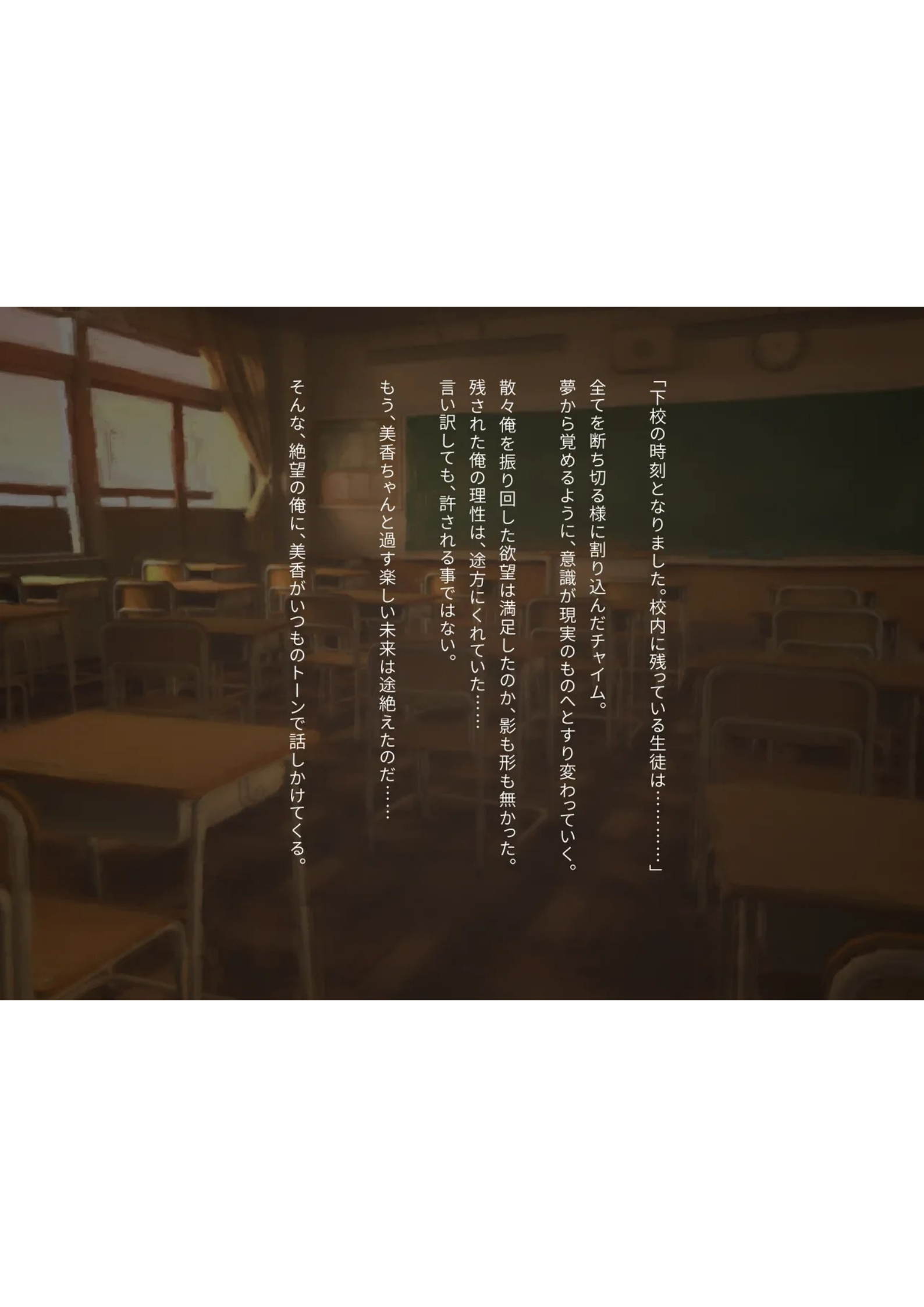


せんぱいっ！

うおおおお……！







「下校の時刻となりました。校内に残っている生徒は……………」

全てを断ち切る様に割り込んだチャイム。

夢から覚めるように、意識が現実のものへとすり変わっていく。

散々俺を振り回した欲望は満足したのか、影も形も無かった。

残された俺の理性は、途方にくれていた……

言い訳しても、許される事ではない。

もう、美香ちゃんと過す楽しい未来は途絶えたのだ……

そんな、絶望の俺に、美香がいつものトーンで話しかけてくる。

先輩、エッチ上手なんです
初めてなのに、イっちゃいました

え？ あー、えっと、
ご、ごめん本当……

こんなの、
宿題手伝うだけじゃ
つり合わないよね……

ああ、それなら心配ないですよ。
実は、宿題はもう終わってるんです。

え!?





宿題の件は、放課後先輩と
一緒になるための口実です
少しでも多く先輩と一緒に
居たいですからね

まさかこんな事になるなんて
思ってもみなかったですけど

ま、マジっすか。美香ちゃん
なかなか大胆なんだね

そうですか？

どうやら美香ちゃんは、はじめから俺に好意をもってくれていたみたい。
美香ちゃんとの楽しい時間はまだまだ続きそうだ。

終わり







































































































































入り口が狭いな……
初めてならこんなものか

グッグッ

心の準備があー！

ギンギン





美香ちゃんの中はとてもあたたかい。
締め付け具合は緩めで、
ペニスが進入される事に慣れていないようだ。



まずはゆっくりピストンだ……

膣内のヒタが優しく俺のペニスを刺激する。

んん

こいっ
へっ
こいっ
へっ



美香ちゃんは抵抗する様子もなく、
俺の動きにひたすら耐えているようだ。
時々ビクツと体を震わせるのがまた愛らしい。

ビクッ

こいッへこいッへ











